

リンパ浮腫保存的治療基本パス（診療用）

病期	がん治療前	〇期 有リスク期（がん治療後予防期）	I 期	II 期早期
症状			還流障害はあるがリンパ浮腫は顕在化していない	夕方になるとむくむ程度、患肢挙上で浮腫改善、部位により圧迫痕が残りやすくなる（圧迫痕は下肢に現れやすいが上肢では現れることが少ない）
目標	リンパ浮腫の病態(リスク) が説明ができる 予防のための日常生活の注意点が説明ができる ケアの方法が説明ができる 早期発見の方法が説明ができる	リンパ浮腫の病態(リスク) が説明ができる 予防のための日常生活の注意点が説明ができる セルフケアの方法が説明ができる 早期発見の方法が説明ができる	リンパ浮腫の病態が説明ができる 日常生活の注意点が理解でき実行できるように指導ができる セルフケアの方法が理解でき実行できるように指導ができる 進行をおさえ浮腫が改善できるように指導ができる	リンパ浮腫の病態が説明ができる 日常生活の注意点が理解でき実行できるように指導ができる セルフケアの方法が理解でき実行できるように指導ができる 進行をおさえ浮腫が改善できるように指導ができる 弾性包帯の施術と指導ができる
指導説明	リンパ浮腫指導管理料の算定要件にそった説明指導 ・リンパ浮腫の病因と病態 ・リンパ浮腫の治療方法の概要 ・セルフケアの重要性と局所へのリンパ液の停滞を予防及び改善するための具体的実施方法 ・生活上の具体的な注意事項 ・感染症の発症等増悪時の対処方法	リンパ浮腫の病態の説明 複合的治療の主に下記について 日常生活上の注意点 スキンケア指導（浮腫の増悪と蜂窩織炎の予防） 早期発見の方法	リンパ浮腫の病態、病期の説明 複合的治療の主に下記について 日常生活上の注意点の説明 スキンケア指導（浮腫の増悪と蜂窩織炎誘発の予防） セルフリンパドレナージ指導 圧迫療法（弾性着衣）の説明 圧迫下の運動療法の説明 弾性着衣などの療養費申請方法(6ヶ月に一度は可能)	リンパ浮腫の病態、病期の説明 複合的治療の主に下記について 日常生活上の注意点の説明 スキンケア指導（浮腫の増悪と蜂窩織炎誘発の予防） セルフリンパドレナージ指導 圧迫療法（弾性着衣）の説明 圧迫下の運動療法の説明 弾性着衣などの療養費申請方法(6ヶ月に一度は可能)
観察確認	周径計測（左右）術前 術後 上肢（腋窩・上腕・前腕・手首・手部） 下肢（鼠径・大腿・下腿・足首・足部） 体重測定 患者の理解度の確認	周径計測（左右）術前 退院時 上肢（腋窩・上腕・前腕・手首・手部） 下肢（鼠径・大腿・下腿・足首・足部） 浮腫の有無 体重測定 患者の理解度とセルフケアの実施状況の確認 ・入院時手術前説明の内容 皮膚を指腹で10秒間圧迫することによる圧迫痕の有無（左右の比較）	周径計測（左右） 上肢（腋窩、上腕、前腕、手首、手部） 下肢（鼠径、大腿、下腿、足首、足部） 表在静脈の見えにくさの確認（健側との比較） 皮膚乾燥の有無 皮膚を指腹で10秒間圧迫することによる圧迫痕の有無（健側との比較） 皮膚がつまみあげにくい部位の確認 炎症症状の有無 体重測定 患者の理解度とセルフケアの実施状況の確認（2回目の受診以降）	周径計測（左右） 上肢（腋窩、上腕、前腕、手首、手部） 下肢（鼠径、大腿、下腿、足首、足部） 表在静脈の見えにくさの確認（健側との比較） 皮膚乾燥の有無 皮膚を指腹で10秒間圧迫することによる圧迫痕の有無（健側との比較） 皮膚がつまみあげにくい部位の確認 炎症症状の有無 体重測定 患者の理解度とセルフケアの実施状況の確認（2回目の受診以降）
処置治療			複合的治療 患肢挙上 スキンケア セルフリンパドレナージ 弾性着衣の選定と着用指導（必要時） 圧迫下の運動療法（必要時）	複合的治療 患肢挙上 スキンケア 用手的リンパドレナージ （セルフ+専門的な知識・技術を要する医療者による指導と施術を推奨。） 圧迫療法 ①弾性着衣の選定と着用指導 ②必要に応じて弾性包帯の施術と指導 （専門的な知識・技術を要する医療者による指導と施術を推奨。） 圧迫下の運動療法
薬物治療		リンパ浮腫単独に対する効果的な薬剤はない	リンパ浮腫単独に対する効果的な薬剤はない	リンパ浮腫単独に対する効果的な薬剤はない
検査	特になし	特になし	1. リンパ浮腫と他疾患の鑑別に実施することを推奨 血液生化学検査、胸部レントゲン検査、心電図検査、超音波検査（心臓・血管・腹部・骨盤部） 2. リンパ浮腫の確定診断 リンパシンチグラフィ、蛍光リンパ管造影※1 3. 症状の確認、併存疾患の除外・鑑別 超音波検査、CT検査、MRI検査、上腕・足関節血圧比（ABPI）※2 ※1 リンパ浮腫の病名では医療保険で認められない。 ※2 圧迫禁忌となる患肢虚血の有無の確認に用いる。	1. リンパ浮腫と他疾患の鑑別に実施することを推奨 血液生化学検査、胸部レントゲン検査、心電図検査、超音波検査（心臓・血管・腹部・骨盤部） 2. リンパ浮腫の確定診断 リンパシンチグラフィ、蛍光リンパ管造影※1 3. 症状の確認、併存疾患の除外・鑑別 超音波検査、CT検査、MRI検査、上腕・足関節血圧比（ABPI）※3 ※1 リンパ浮腫の病名では医療保険で認められない。 ※2 圧迫禁忌となる患肢虚血の有無の確認に用いる。
活動清潔食事	（日常生活上の注意点に則っていれば）、特に制限なし	（日常生活上の注意点に則っていれば）、特に制限なし	（日常生活上の注意点に則っていれば）、特に制限なし	（日常生活上の注意点に則っていれば）、特に制限なし
受診時期と間隔	症状出現時には早めの受診	症状出現時には早めの受診	セルフケアを習得するまでは頻回(必要により入院)に、習得後は3-6か月毎（弾性着衣の療養費支給も考慮） 症状変化に応じて適宜増減	セルフケアを習得するまでは頻回(必要により入院)に、習得後は3-6か月毎（弾性着衣の療養費支給も考慮） 症状変化に応じて適宜増減

適応基準：腋窩、骨盤内、単径部のリンパ節郭清術もしくは、放射線治療を行った乳がん、婦人科がん、消化器がん、膀胱がん、前立腺がん、四肢の皮膚がん症例 とリンパ節転移による浮腫、化学療法施行症例の浮腫

除外基準：蜂窩織炎などの急性炎症、うっ血性心不全、深部静脈血栓症急性期、重症虚血肢

このパスはリンパ浮腫診療の専門施設で使用することを前提とする

複合的治療とは複合的理学療法を中心とする保存的治療のことであり
複合的理学療法とはスキンケア、用手的リンパドレナージ、圧迫療法、圧迫下の運動療法の4本柱で行うリンパ浮腫の保存的治療法のことであり

※注釈

- 〇期でのセルフリンパドレナージはハイリスク症例で行うこともあるが、根拠がないため原則行わない
- リンパ浮腫指導管理料100点（入院中1回、外来受診時に1回算定できる）
- 周径計測の部位は各施設で設定するが毎回同部位を測定する
- 検査と処置はあくまでも推奨である
- 受診間隔はあくまでも目安であり施設により異なる。悪化時は適宜短縮する
- 弾性包帯・弾性着衣は個別にそして部分的に素材の選定・圧迫方法の工夫などを要する

※説明内容の詳細については患者用説明パンフレットを参照する

リンパ浮腫保存的治療基本パス（診療用）

病期	Ⅱ期晩期	Ⅲ期
症状	安静臥床や患肢挙上でも浮腫改善しない 皮膚が硬くなり圧迫痕が残りにくくなる。	皮膚が硬くなり圧迫痕は残らなくなる 乳頭腫、リンパ小疱、リンパ漏、象皮症などの合併症が出現する
目標	リンパ浮腫の病態が説明ができる 日常生活の注意点が理解でき実行できるように説明ができる セルフケアの方法が理解でき実行できるように指導ができる 進行をおさえ浮腫が改善できるように指導ができる 弾性包帯の施術と指導ができる	リンパ浮腫の病態が説明ができる 日常生活の注意点が理解でき実行できるように説明ができる セルフケアの方法が理解でき実行できるように指導ができる 進行をおさえ浮腫が改善できるように指導ができる 弾性包帯の施術と指導ができる
指導説明	リンパ浮腫の病態、病期の説明 複合的治療の主に下記について 日常生活上の注意点の説明 スキンケア指導（浮腫の増悪と蜂窩織炎誘発の予防） セルフリンパドレナージ指導 圧迫療法（弾性着衣）の説明 圧迫下の運動療法の説明 弾性着衣などの療養費申請方法(6ヶ月に一度は可能)	リンパ浮腫の病態、病期の説明 複合的治療の主に下記について 日常生活上の注意点の説明 スキンケア指導（浮腫の増悪と蜂窩織炎誘発の予防） セルフリンパドレナージ指導 圧迫療法（弾性着衣）の説明 圧迫下の運動療法の説明 弾性着衣などの療養費申請方法(6ヶ月に一度は可能) 合併症の治療の説明
観察確認	周径計測（左右） 上肢（腋窩、上腕、前腕、手首、手部） 下肢（臍径、大腿、下腿、足首、足部） 表在静脈の見えにくさの確認（健側との比較） 皮膚乾燥の有無 皮膚を指腹で10秒間圧迫することによる圧迫痕の有無（健側との比較） 皮膚がつまみあげにくい部位の確認 炎症症状の有無 皮膚硬化の有無 体重測定 患者の理解度とセルフケアの実施状況の確認（2回目の受診以降）	周径計測（左右） 上肢（腋窩、上腕、前腕、手首、手部） 下肢（臍径、大腿、下腿、足首、足部） 表在静脈の見えにくさの確認（健側との比較） 皮膚乾燥の有無 皮膚を指腹で10秒間圧迫することによる圧迫痕の有無（健側との比較） 皮膚がつまみあげにくい部位の確認 炎症症状の有無 皮膚硬化の有無 体重測定 合併症（乳頭腫、リンパ小疱、リンパ漏）の有無 患者の理解度とセルフケアの実施状況の確認（2回目の受診以降）
処置治療	複合的治療 患肢挙上 スキンケア 用手的リンパドレナージ (セルフ+専門的な知識・技術を要する医療者による指導と施術を推奨。) 圧迫療法 ①必要に応じて弾性包帯の施術と指導 ②弾性着衣の選定と着用指導 (専門的な知識・技術を要する医療者による指導と施術を推奨。) 圧迫下の運動療法 入院治療を推奨（専門的な知識・技術を要する医療者による指導と施術を推奨。)	複合的治療 患肢挙上 スキンケア（象皮症には皮膚軟化剤を使用）尿素製剤など？ 用手的リンパドレナージ (セルフ+専門的な知識・技術を要する医療者による指導と施術を推奨。) 圧迫療法 ①必要に応じて弾性包帯の施術と指導 ②弾性着衣の選定と着用指導 (専門的な知識・技術を要する医療者による指導と施術を推奨。) 圧迫下の運動療法 合併症の治療 入院治療を推奨（専門的な知識・技術を要する医療者による指導と施術を推奨。)
薬物治療	リンパ浮腫単独に対する効果的な薬剤はない	リンパ浮腫単独に対する効果的な薬剤はない
検査	1. リンパ浮腫と他疾患の鑑別に実施することを推奨 血液生化学検査、胸部レントゲン検査、心電図検査、超音波検査（心臓・血管・腹部・骨盤部） 2. リンパ浮腫の確定診断 リンパシンチグラフィ、蛍光リンパ管造影※1 3. 症状の確認、併存疾患の除外・鑑別 超音波検査、CT検査、MRI検査、上腕・足関節血圧比（ABPI）※2 ※1 リンパ浮腫の病名では医療保険で認められない。 ※2 圧迫禁忌となる患肢虚血の有無の確認に用いる。	1. リンパ浮腫と他疾患の鑑別に実施することを推奨 血液生化学検査、胸部レントゲン検査、心電図検査、超音波検査（心臓・血管・腹部・骨盤部） 2. リンパ浮腫の確定診断 リンパシンチグラフィ、蛍光リンパ管造影※1 3. 症状の確認、併存疾患の除外・鑑別 超音波検査、CT検査、MRI検査、上腕・足関節血圧比（ABPI）※2 ※1 リンパ浮腫の病名では医療保険で認められない。 ※2 圧迫禁忌となる患肢虚血の有無の確認に用いる。
活動清潔食事	(日常生活上の注意点に則っていれば)、特に制限なし	(日常生活上の注意点に則っていれば)、特に制限なし
受診時期と間隔	セルフケアを習得するまでは頻回(必要により入院)に、習得後は3-6か月毎(弾性着衣の療養費支給も考慮) 症状変化に応じて適宜増減	セルフケアを習得するまでは頻回(必要により入院)に、習得後は3-6か月毎(弾性着衣の療養費支給も考慮) 症状変化に応じて適宜増減

特殊な時期のリンパ浮腫保存的治療基本パス（診療用）

進行・再発・転移に伴う高度のリンパ浮腫	
症状	皮膚浸潤、リンパ節転移による急激な皮膚の硬化、発赤などの増悪
目標	リンパ浮腫の病態が説明ができる 日常生活の注意点が理解でき実行できるように説明ができる セルフケアの方法が理解でき実行できるように指導ができる 進行をおさえ浮腫が改善できるように指導ができる ADL QOLの維持・改善を図ることができる
指導説明	リンパ浮腫の病態、病期の説明 複合的治療の主に下記について 日常生活上の注意点の説明 スキンケア指導（浮腫の増悪と蜂窩織炎誘発の予防） リンパドレナージ指導 圧迫療法の説明 心理的・社会的サポート
観察確認	皮膚乾燥の有無 表在静脈の見えにくさの確認（健側との比較） 周径計測（左右） 上肢（腋窩、上腕、前腕、手首、手部） 下肢（鼠径、大腿、下腿、足首、足部） 炎症症状の有無 皮膚硬化の有無 リンパ漏の有無 体重測定
処置治療	複合的治療 スキンケア 患肢挙上 用手的リンパドレナージ 圧迫（チューブ包帯または伸縮性包帯で軽く） 圧迫療法と運動療法を中心とし、用手的リンパドレナージについては原疾患治療医と相談のうえ行う
薬物治療	リンパ浮腫単独に対する効果的な薬剤はない （全身性浮腫を合併する場合はその原因に応じた薬剤を使用する）
検査	1. リンパ浮腫と他疾患の鑑別に実施することを推奨 血液生化学検査、胸部レントゲン検査、心電図検査、超音波検査（心臓・血管・腹部・骨盤部） 2. リンパ浮腫の確定診断 リンパシンチグラフィ、蛍光リンパ管造影※1 3. 症状の確認、併存疾患の除外・鑑別 超音波検査、CT検査、MRI検査、上腕・足関節血圧比（ABPI）※2 ※1 リンパ浮腫の病名では医療保険で認められない。 ※2 圧迫禁忌となる患肢虚血の有無の確認に用いる。
活動清潔食事	（日常生活上の注意点に則っていれば）、特に制限なし

緩和医療対象（終末）期のリンパ浮腫	
症状	がん終末期患者のリンパ浮腫 全身性浮腫を合併して皮膚が脆弱となる
目標	安楽を保つケアができる ADL QOLの維持・改善を図ることができる
指導説明	複合的治療の主に下記について スキンケア指導（浮腫と蜂窩織炎誘発の予防） 心理的・社会的サポート
観察確認	炎症症状の有無 皮膚乾燥の有無 皮膚の脆弱性の有無 全身性浮腫の有無 リンパ漏の有無 リンパ小疱の有無
処置治療	本人の希望を優先 複合的治療 スキンケア 患肢挙上 タッチング 圧迫（チューブ包帯または伸縮性包帯で軽く） 圧迫療法を中心とするが用手的リンパドレナージについては主治医と患者に相談のうえ行う
薬物治療	リンパ浮腫単独に対する効果的な薬剤はない （全身性浮腫を合併する場合はその原因に応じた薬剤を使用する。）
検査	必要に応じて全身性浮腫との鑑別を行なう 疼痛などの原因検索
活動清潔食事	（日常生活上の注意点に則っていれば）、特に制限なし

蜂巣炎・蜂窩織炎を伴うリンパ浮腫	
症状	皮膚に急性炎症症状がある
目標	蜂窩織炎の病態が説明できる 治療の必要性が説明できる 炎症症状が改善する治療・ケアができる
指導説明	リンパ浮腫にともなう蜂窩織炎の説明 スキンケア指導（浮腫と蜂窩織炎誘発の予防） 安静冷却の必要性の説明 用手的リンパドレナージと圧迫療法の再開タイミングの説明
観察確認	全身の発熱の有無 皮膚の発赤、腫脹、疼痛、熱感の有無 皮膚乾燥の有無 周径計測（左右） 上肢（腋窩、上腕、前腕、手首、手部） 下肢（鼠径、大腿、下腿、足首、足部） 皮膚硬化の有無 体重測定 全身性浮腫の有無 皮膚の脆弱性の有無
処置治療	複合的治療 スキンケア 患肢の安静挙上 局所の冷却（冷やしすぎない工夫を） 圧迫・用手的リンパドレナージの休止
薬物治療	抗生物質と消炎鎮痛剤の投与
検査	血液検査(CBC CRP)
活動清潔食事	炎症が治まるまで安静、患肢挙上。発熱が治まるまでは入浴をひかえる。